

23 日から降り始めたクリスマス寒波で、一気に根雪となりそうな勢いで 27 日午前中まで降りました。ハウスサイドでは 1m に達する雪の壁が出来ております。本年は昨シーズンに劣らない降雪予報となっておりますので、ハウス管理には充分注意して下さい。

ハウス管理

パイプハウスの雪害回避については以下の点に注意して下さい。

ハウスの補強として 10 スパン (5 m) おきに支柱を立てる。支柱の下は板やブロックなどを敷き、めり込まないようにする。上の方は強風時に外れないように、天井の通しパイプと絡げておく。

補強が全く無い場合は屋根面に 20 cm 以上の積雪があると倒壊の危険性が非常に高まる。よって、ハウスサイドの除雪を徹底する。

ハウス内の温度がマイナスになると、雪がビニールに凍りついて滑らなくなり、ハウスサイドが空いていても屋根面の積雪が進むので、家庭用ストーブを最低 20m に一基配置して置き、状況を見て暖房する。

散水設備があるハウスでは降雪前に、点検と試運転を行なっておく。散水は降雪があったら、降り始めより稼動しておく。ただし、地下水位の低下により、散水に不具合が起きる場合があるので、時々点検すること。なお、散水ホースはハウスの肩部分に設置し、噴霧または散水タイプのものを使用する。

厳冬期では、ビニールの張っていないハウスでも雪が固着し、固まりが大きくなり倒壊にいたることがあるので、降雪時には確認が必要である。

ハウス間に雪が堆積し、排出が困難になったら、裾ビニールを切るか、たくし上げてハウスの中に雪を投げ込む。

大雪で、雪の始末が出来なくなったり、一気に降雪で除雪が追いつかなくなったら、屋根面のビニールをパイプに沿って額縁状に切り取りハウス内に雪を落とし込む。

なお、ハウスサイドの除雪に当たっては、スコップでビニールを破らないように気をつけて除雪作業を行なって下さい。

軟弱野菜の管理

未熟堆肥を使用している場合、これから春先にかけて、キノコバエの類が発生してきます。大量に発生するとハウレンソウなどの葉に白い糞をつけて、商品性を著しく落とすので注意が必要です。また、幼虫であるウジムシも根部を食害している可能性があります。

ハウレンソウではこれから「ベト病」が発生しやすくなります。専門的農家では「トラッド7」や「クロノス」などベト病抵抗性品種を使うことは常識になっていますが、まだまだ品種に無頓着な方がおられます。耕種的な対応としては、晴れた日は換気を図るなど、湿度をできるだけ抑えることです。基本的には発芽してからの水遣りは原則として行いません。特に常に土壌表面が湿気ているようなハウスでは灌水は禁物です。

ケナガコナダニは気温の低下で、被害は少なくなってきますが、春先温度が上昇し始めると再び被害が発生してきます。この害虫の湿気た環境が好きですので、土壌表面を乾かすように管理することが重要です。



ハウス支柱とストーブの設置



ケナガコナダニの食害



キノコバエの糞害

ハウレンソウベト病